

# 17歳

作詞：山内彰馬 作曲：露口仁也

白いシャツが風に揺れている  
青葉のように僕ら息吹いている

校庭に咲いた花が茜に染まる  
見慣れた家路 四つ踵を鳴らす

大切なのは周りの目なんかじゃ無いだろう  
卑怯に世の中を渡って自分を偽るくらいなら  
丸腰でも 不恰好でもいいんだよ  
いつか褪せるのなら 君よ美しくあれ

言葉を吐けば宙を舞う 嘴呼なんて生きづらい世界だろう  
アンタの言う「勝ち組」って 何に勝てばそれを名乗れるの？  
不平不満を垂れ流して 指をくわえて眺めているだけじゃ  
何も変わらんだろうよ さあ今、世界を変える時さ

校庭に咲いた花が茜に染まる  
見慣れた家路 四つ踵を鳴らす

大切なのは周りの目なんかじゃ無いだろう  
卑怯に世の中を渡って自分を偽るくらいなら  
丸腰でも 不恰好でもいいんだよ  
いつか褪せるのなら 君よ美しくあれ

# 影と光

作詞：山内彰馬 作曲：山内彰馬

自ら一人を選んだくせに 寂しさを世界のせいにした  
貰った指先の温もりも だんだん思い出せなくなつて  
僕は世界でただ唯一の 幸せ者だと泣いていた  
これで人の醜さに 触れることなく生きてゆけると

そんな強がりも長く続くはずはなく ただ僕は声を枯らしていた

行き場のない孤独たちは この腕の中で  
逃げ場はない 僕が壁で作った世界だから

咲いた花が枯れ落ちるようすに 昇った日がまた沈むように  
どれだけ綺麗に光つたって 輝きは失われていった  
明日は皆に平等に与えられ 好きに使えと言い残してた  
考えるうちに明日は過ぎて 気付けばもうそこに無かった

募っていく痛みたちは 今日も胸の中で  
癒えやしない傷を抱えて 僕は歩いている

孤独の中で出会いを知つて 壁の中で人を想つた  
傷が癒えないのは 忘れちゃいけないものがあるからだ

何回だって降り注ぐ 迷いの先でいつか笑えたなら  
出会ったすべての上に立つ孤独さえも共に「僕」と呼ぼう

# そのまま

作詞：山内彰馬 作曲：露口仁也

いつか僕が泣いてた夜に 声を聞かせてくれたあなたに

ちゃんと言葉にしようと思ったんだ そんなことは無いと分かっていても  
ずっと一緒に居られると思い込んで 言えなかったって後悔はしたくないから

ボロボロになったこの足を見下ろして 僕ら歩くのを止めがちだ  
ゴールはきっと落とし穴みたいに どこにあるのか分かんなくて

溢れた涙が洗い流す あなたが創り上げたあなたって武器を  
手放して初めて花は咲くんだろう 繕わないで そのまでいいんだ

あなたが一人泣いてる夜に 寄り添っていたくて歌を贈るよ

ボロボロになったこの足を見下ろして 僕ら歩くのを止めがちだ  
ゴールはきっと落とし穴みたいに どこにあるのか分かんないけど

ボロボロになったその足は あなたがここまで歩いてきた証拠だ  
たまには振り返るのも悪くないだろう

溢れた涙が零れ落ちる あなたが積み重ねたあなたってやつは  
ほら今 級麗に輝いてるでしょ  
そのまでいて ただ笑ってほしいんだ